

キャラクター名 霧森・霧佳(ひなもり・きりか)	プレイヤー名
----------------------------	--------

シンドローム	エンジェルヒロウ ハヌマーン	ワークス	高校生	カヴァー	高校生(UGNイリーガル)
オプション		年齢	16歳(高校1年生)	性別	女
覚醒	死	衝動	恐怖	初期侵食率	35%
出自	安定した家庭	経験	喪失	邂逅	師匠：尾花 千暖

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	1	1	0			2	行動値	10
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	10
精神	2	0	0			2	戦闘移動	15
社会	1	0	0			1	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
インビジブル・バレット	射撃	5r+4		30		<コンセントレイト：ハヌマーン>+<風鳴の爪>+<見えざる死神>
隠密状態	射撃	6r+4		30		
	射撃	7r+4		30		
	射撃	8r+4		38		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ：UGN幹部	

合計装甲：	0	合計回避：	0
-------	---	-------	---

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タ イ ム ス	消 費
無疵なる石	P	N		
両親	P 執着	N 隔意		
雁屋・優佳	P 愛情	N 憎悪		
ヘリオドール	P 好奇心	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	2	残り財産P:	0
--------	---	--------	---

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセ：ハヌマーン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果：	クリティカル-[LV]							
ソニックブリッツ	1	2	マイナー	15m	自身	-	-	
効果：	射撃武器作成。1シーン持続。 攻撃力：[Lv+4]、攻撃時のドッジダイス-1							
陽炎の衣	2	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	隠密状態になれる。1シーンLv回。メインプロセス終了まで持続。							
風鳴の爪	1	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	組み合わせた攻撃でDL後、[Lv]個のダイス目を振り直せる							
見えざる死神	2	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果：	判定ダイス+1個、攻撃力+[Lv*3]。隠密状態の間のみ使用可。							
マシラのごとく	3	5	メジャー	-	単体	対決	80↑	
効果：	攻撃力+[Lv*10]する。判定ダイス-5個。1シナ1回。							
軽功	★							
効果：	身軽だよ							
無音の空間	★							
効果：	気配を消せる							
うさぎの耳	★							
効果：	色々聞こえるよ							
見放されし地	★							
効果：	…隠れるのは、得意なので。							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

「教官、報告書の作成が出来たんですけど……後の方が良いですか？」

「別に…無理してません。これくらいしないと…アイツには、届かないんです」

「……すみません、次はミスしないように、気を付けます」

「大丈夫？何か手伝うけど……」

父が居て、母が居て、姉が居て。これといって目立つ事のある家庭ではないが。少しだけ裕福な家庭で育っていった。宛に角敵しい父と、厳しいけれども優しさがあった母。完璧で優秀な姉に、これといって取り得のない自分。両親はそんな姉と常に自分を比較して来た。どんなに頑張っても、両親は認めてくれない…けれど、姉だけは自分の頑張りを認めてくれていた。自分を認めてくれる姉だけが、心の支えだった。(両親も、極端に頑張ったと認めてくれる事はあった。だが些細な程度あり殆どないに等しい感じ)

小さい頃から頑張りが続いてきて…高校入学の時。難関校と呼ばれている私立高校への入学を決めた。その時、初めて両親が認めてくれた。褒めてくれた。努力が報われたと、思った時だった。